A 生 命　Ⅰ段階・・・ア 身の回りの生物 2段階・・・ア 人の体のつくりと運動

※ 小学校・中学校理科の柱「生命」

生　活

サ　生命・自然

サ 生命・自然

	小学部　Ⅰ段階	小学部　２段階	小学部　３段階
	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化，季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動	身近にいる昆虫，魚，小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動
思判表	(ｱ) 身の回りにある生命や自然に気付き，それを教師と一緒にみんなに伝えようとすること。	(ｱ) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり，それらを表現しようとすること。	(ｱ) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり，それらを表現すること。
知技	(ｲ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	(ｲ) 身近な生命や自然について知ること。	(ｲ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
	【自然との触れ合い】		
指導内容	身近な自然の中で遊ぶこと／自然を利用した遊びをすること／校外学習などの際に自然に親しむこと		
単元	・公園，川，野山，海などで楽しく遊び，自然の事物や事象に触れ，生き物などに興味や関心をもつこと	・自然の事物や事象に触れ，自然がその姿を変えることが分かったり，動物の動きなどに興味をもったりすること	・草木，木の実，落ち葉などを集めたり，形や色などの特徴をつかんだり，植物の変化を捉えたりすること ・自然の事象として天候の変化などについて学習すること
	生活単元学習 （校外歩行：公園の自然に親しむこと等） （校内歩行：花壇の植物に関心をもつこと等）		生活（草花や木のはであそぼう ～春・夏・秋・冬～） 生活（きせつのずかん ～春・夏・秋・冬～）
	生活単元学習 （校外歩行：公園の自然に親しむこと等） （校内歩行：花壇の植物に関心をもつこと等）		生活（草花や木のはであそぼう ～春・夏・秋・冬～） 生活（きせつのずかん ～春・夏・秋・冬～）
	日常生活の指導（朝の会・帰りの会：季節〔食べ物・生き物・衣替え・行事等〕等に関連した話題に触れること）		
	【動物の飼育・植物の栽培】※動物の飼育		
指導内容	身近に生息する小動物を探したり様子を観察したり，触れたりして，それらに関心をもつこと／世話をしたり，育てたりして，成長や変化に気付くこと		
単元	・飼育している身近な動物に興味をもつこと	・小動物を飼育し，生き物への興味や関心をもつこと ・自分で育てるという実感をもつ上で，飼育動物のために，校庭の草を刈ったり，給食室に野菜くずをもらいに行ったりすること	・身近にいる昆虫，魚，小鳥の飼育をしながら関心を深めること ・動物を飼育する場合は外敵の防止や気温の変化などに十分配慮し，飼育環境を整えること
	生活単元学習 （校外歩行：区立公園内こども動物園で動物を見ること・動物に触れること等）		
			生活（めざせ！生きものはかせ） ※デジタル教材活用

理　科

ア　身の回りの生物

ア 身の回りの生物

	中学部　Ⅰ段階
	身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，生物の姿に着目して，それらを比較しながら調べる活動
知技	(ｱ) 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㋐生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること。 ㋑昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。
思判表	(ｲ) 身の回りの生物について調べる中で，差異点や共通点に気付き，生物の姿についての疑問をもち，表現すること。
	【生物の姿の違い】
	㋐生徒の身の回りに見られる様々な生物の色，形，大きさなどの特徴について調べる活動
知技	生物にはそれぞれに固有の形態があることについての理解を図り，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること
思判表	・「差異点や共通点に気付き」とは，生物の姿について，違う点や同じ点に気付くこと ・「疑問をもち」とは，「虫の形は全部違うのかな」といった考えをもつこと
単元	・タンポポやチューリップなどの様々な種類の植物やアリやカエルなどの様々な種類の動物を観察する際に，見たり，触れたり，においを感じたりするなど直接観察することを通して，諸感覚で確認すること
	生物の構造と機能／生命の連続性／生物と環境の関わり 理科（自然の観察～生き物のすがた[春～冬の生き物]～）
	㋐㋑共通 ・野外での学習に際しては，毒をもつ生物に注意するとともに事故に遭わないように安全に配慮するように指導すること ・自然環境の中で，生物の採取は必要最小限にとどめるなど，生態系の維持に配慮するようにし，環境保全の態度を育てるようにすること
	生物の構造と機能／生命の連続性／生物と環境の関わり 理科（自然の観察～生き物のすがた[春～冬の生き物]～）
	【昆虫の育ち方】
	㋑様々な昆虫の成長の過程や成長による体の変化を調べる活動
知技	昆虫の育ち方には，「卵→幼虫→蛹→成虫」というような一定の順序があることについての理解を図り，図や絵，映像などに記録するなどの観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること
思判表	「差異点や共通点に気付き」とは，昆虫の育ち方について，違う点や同じ点に気付くこと
単元	・飼育を通して行うこと ・観察，実験などの際，「卵→幼虫→成虫」などの変態の仕方が違う昆虫を用意して，比較すること ・その際，生徒の実態に応じて，図や絵，映像などに記録すること ・飼育が簡単で，身近に見られるもので，昆虫を扱うようにし，日常生活の指導の中で，係活動として学習するなどして，継続的に取り組むなど工夫すること ・生活科の学習との関連を考慮しながら，理科の学習の基盤となる自然体験活動の充実を図り，生徒の野外での発見や気付きを大切にすること ・観察の際は，直接観察することに加え，細かい部分を拡大するなどして，生物の特徴を図や絵で記録するなど，身の回りの生物について考えたり，説明したりする活動の充実を図るようにすること ・虫眼鏡などの器具の使用
	理科（こん虫を育てよう ～モンシロチョウ～） ※デジタル教材活用 生物の構造と機能／生命の連続性／生物と環境の関わり
	小３理科 Ｂ生命・地球　(1)身の回りの生物

ア　人の体のつくりと運動

ア 人の体のつくりと運動

	中学部　２段階
	人や他の動物について，骨や筋肉のつくりと働きに着目して，それらを関係付けて調べる活動
	(ｱ) 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㋐人の体には骨と筋肉があること。 ㋑人が体を動かすことができるのは，骨，筋肉の働きによること。
	(ｲ) 人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で，見いだした疑問について，既習の内容や生活経験を基に予想し，表現すること。
	【骨と筋肉】
	㋐人や他の動物の運動器官について調べる活動
知技	体を支えたり体を動かしたりするときに使われる骨と筋肉があることについての理解を図り，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること
思判表	「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは，これまでの学習内容や生活において歩いたり，走ったりした経験などを基に予想すること
単元	・観察，実験などの際，自分の体に直接触れることを手掛かりとして，骨の位置や筋肉の存在を調べること ・硬い部分としての骨と柔らかい部分としての筋肉があることを捉えるようにすること ・骨や筋肉の存在を調べる際には，自分の体を中心に扱うようにし，他の動物としては，骨や筋肉の働きが調べられる身近で安全な哺乳類，例えば，学校飼育動物の観察など
	理科（人の体のつくり・動物の体のつくり）
	生物の構造と機能
	【骨と筋肉の働き】
	㋑人や他の動物の骨や筋肉のつくりについて調べる活動
	人や他の動物が体を動かすことができるのは，骨と筋肉の働きによることについての理解を図り，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること
	「既習の内容や生活経験を基に予想し」とは，これまでの学習内容や生活において歩いたり，走ったりした経験などを基に予想すること
単元	・関節の働きを扱うものとすること ・観察，実験などの際，自分の体を動かしたり他の動物が運動しているところを観察したりして，体の動きと骨や筋肉との関係を調べること ・体の各部には，手や足のように曲がるところと曲がらないところがあり，曲がるところを関節ということを捉えるようにすること ・人の体の骨や筋肉の働きについて，体のつくりについて予想したことを，絵を用いて表現したり，「関節」という名称を使用して説明したりすること ・骨や筋肉の存在を調べる際には，自分の体を中心に扱うようにし，他の動物としては，骨や筋肉の働きが調べられる身近で安全な哺乳類，例えば，学校飼育動物の観察など
	理科（人の体を動かすしくみ）
	【骨と筋肉】※再掲
	㋐人や他の動物の運動器官について調べる活動
	理科（人の体のつくり・動物の体のつくり）
	生物の構造と機能
	【骨と筋肉の働き】※再掲
	㋑人や他の動物の骨や筋肉のつくりについて調べる活動
	理科（人の体を動かすしくみ）
	小４理科 Ｂ生命・地球　(1)人の体のつくりと運動